

# 三鷹事件

## 「事件」の真相を究明し、竹内景助さんの再審実現を！

東京高裁刑事5部は事実調べを行い、速やかな再審開始決定を



故竹内景助さん

一九四九年、夏 三鷹駅で無人電車が暴走！「犯人」とされた竹内さんは獄死に

三鷹事件は、アメリカ軍占領下で国鉄をめぐって引き起こされた下山、松川事件とならぶ「三大謀略事件」の一つです。

一九四九年七月十五日、国鉄労働者十万人の首切りに反対するたたかいの最中に、中央線三鷹駅構内から無人電車が暴走し、市民六人が死亡、二〇数人が重軽傷を負う事件が発生しました。捜査当局は国鉄労働組合員と共産党員による犯行だとして国労三鷹電車区の分会員ら十人が「電車転覆致死」の容疑で逮捕、起訴されました。

一審判決は、国労組合員と共産党員が共同謀議し、組織的な犯行を行ったという検察側主張について、被告人らには明確なアリバイがあり共同謀議は「空中楼阁」として犯行を否定、竹内さん以外の9人を無罪としました。しかし、竹内さんについては、単独犯行の「自白」にもとづき、無期懲役としました（一九五〇年）。五一年に東京

二〇一二年、秋 六〇年の歳月を越えて…  
遺族が名誉回復を求め、第二次再審を申し立てました

竹内さんの遺族は「死刑囚の家族」とされ身を潜めるようになってきましたが、獄死から四四年、事件発生からは六二年を経た二〇一一年十一月、「父親の無念を何としても晴らしたい」とご長男が決意をされ、竹内さんの名誉回復を求め、第二次再審を東京高裁に申し立てました。

【竹内さんは無実！数々の有力証拠】

①「自白」で犯行はできない  
確定判決は竹内さんの「自白」に依拠し「単独での犯行」と認定しました。「自白」では先頭車両の運転台で麻ヒモでコントロール（自動車のアクセルを上げて電車を暴走させた）とされています。

ところが、暴走電車から発見されたのは紙ヒモで「自白」と矛盾します。強い力で戻ろうとするコントロールを片手で押さえつけながら、もう片手で縛って固定するのは極めて困難です。

②真犯人は複数犯  
最大の問題は新しい鑑定で第二車両の



駅前の民家に突っ込んだ先頭車両

高裁は無期懲役を破棄して死刑を宣告。竹内さんは最高裁に上告しましたが、五五年、一五人の裁判官中「八対七」の僅差で死刑が確定。無実を主張して五六年に東京高裁に再審を申し立てましたが、六七年に無念のうちに獄死（享年四五歳）したため、再審の手続は終了したとされてきました。

パンダグラフも上がっていたことが証明されたことです。パンダグラフはそれぞれの車両ごとに操作しなければ上がりません。ところが当時の列車は相互の客室移動はできない構造です。先頭車両のパンダグラフを上げてからいったん降りて、第二車両に乗り移ってふたつ目のパンダグラフを上げるといふことは、僅かな時間で電車が走り始めることを考えると到底不可能であり、真犯人は複数犯であったことが強く推認されます。

③つくられた「目撃証言」  
判決が有力な証拠としたS氏の「目撃証言」は、捜査当局に強制されたものという告白についての新証言も提出されました。

【まだ、無実の証拠が隠されている】  
布川事件などでも検察の未提出証拠に無実が隠されていました。本件でも現場から検出された指紋などの重要証拠が提出されています。東京高裁刑事第5部での異議審でこそ事実調べを行い、開始決定をちとるためご支援をお願いします。

三鷹事件の真相を究明し、語り継ぐ会

連絡先：立川市羽衣町二一九一 二 国民救援会三多摩総支部 ☎042(524)1532

